都市の中の地被植物のトレンドとネイチャーポジティブへの貢献

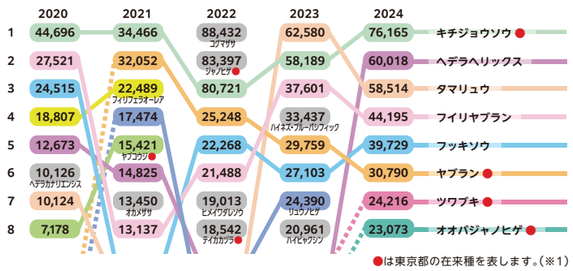
日比谷アメニスグループ植栽樹種データの比較から

2021年から日比谷アメニスグループが収集し発表してきた環境価値に関するデータを元に、近年の都市緑化で植えられる地被植物の傾向を整理しました。ネイチャーポジティブの実現へ向け、より生物多様性に配慮した魅力的な緑地空間の創出を目指し、地被植物の生産や緑地設計の現場で役立つ情報を提供します。

都市に植えられる地被植物の動向

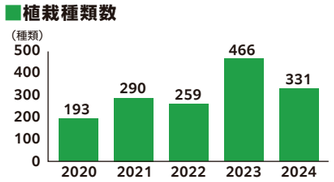
景観デザインへの意識の向上や、多様な立地条件に適応できる植物への関心の高まりなどの傾向から、地被植物の植栽種数は多様化しています。また、在来種の植栽種数も増加傾向にあります。この背景には、環境保全や生物多様性の向上に対する意識の高まりがあると考えられます。今回の分析では、地被植物の年度別の植樹種数ランキングの動向を整理し、都市緑化における種類選択のトレンドを詳しく調べた他、生物多様性との関係についても考察しました。

地被植物種類別植栽本数ランキング(1~8位)

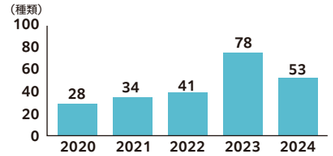


●は東京都の在来種を表します。(※1)

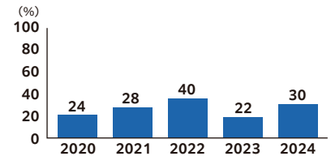
■植栽種類数



■在来種の種類数



■在来種割合



地被植物の在来種割合は30%前後となっております。在来種の割合が伸びない要因として、在来種は生産量が限られ、安定的に市場に出回らないものも多く、その分高価にもなり、植栽に利用しにくいなどの要因が考えられます。在来種を積極的に取り入れた植栽計画をする場合は地域固有種の選定や、種苗の確保などの事前準備が必要です。地被植物は園芸トレンドの影響を受けやすく、多く植えられる種類は年により大きく変動しています。常緑で耐病性や耐暑性、耐陰性に優れ、ローメンテナンスな種類が人気の傾向があり、特にグラウンドカバーに利用できる種類が人気です。中でも在来種であるキチジョウソウの人気は根強く、耐陰性が高いことや、地下茎を伸ばして増えるため被覆能力が優れていること、控えめな美しさで幅広い庭園デザインにマッチすることが要因であると考察できます。また、最近では、ヤブランの植樹本数が減少傾向にある一方、フイリヤブランが人気を上げています。このことから、手軽に緑地のアクセントとなり、明るい印象を与えるカラーリーフが人気を集めていると推測されます。

※1　東京都の在来種割合の算出に当たって、アメニスグループで植栽した地被植物を、東京都環境局の在来種選定ガイドライン(https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/green/green_biodiv/ns_guidelines/)に記載されている「東京都本土部における植栽のための在来種リスト」に照らし合わせて分析を行いました。

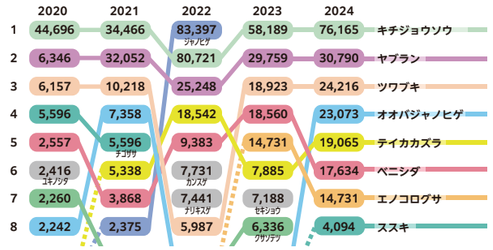
地被植物と生物多様性

近年はどのような在来種が人気なのでしょうか。ランキングで毎年上位にランクインしていたものに加え、ツワブキ、テイカカズラ、ベニシダは在来種の植物の中で安定した人気がありました。在来種の植物は古くから日本の自然環境に存在し、在来種の昆虫の生息に重要な存在です。在来種の植栽率が高いほど、生物多様性保全効果が高いことも報告されています。(※2)
ランクインしている中にも在来種の昆虫の主要な食草になるものもありました。都市部での緑地計画の際には、周囲の環境を調査し、誘致可能距離にいる昆虫・鳥類の生息地や中継地として必要な環境を用意することが、生物多様性保全に重要な生態系ネットワーク形成につながります。

食草名	食草とする昆虫　●は東京都の準絶滅危惧種です。
エノコログサ	イチモンジセセリ、キマダラセセリ、ヒメジャノメ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ
ススキ	キマダラモドキ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、ホソバセセリ、ギンイチモンジセセリ●、イチモンジセセリ、クロコノマチョウ、ススキキオビカザリバ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、ツチイナゴ、コバネイナゴ
カンスゲ	オオヒカゲ、カンスゲワタムシ
テイカカズラ	アシブトチズモンアオシャク、オレクギエダシャク
ナキリスゲ	オオヒカゲ
チゴザサ	ヒメウラナミジャノメ、コジャノメ、クロコノマチョウ、キマダラセセリ

※2　大和ハウス工業株式会社の2024年8月19日掲載のニュースレター(https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/house/20240808144256.html)を参考にしました。

地被植物(東京都の在来種のみ)種類別植栽本数ランキング



地被植物種類別植栽本数ランキング(9~60位)

順位(2024年)	樹種名	植樹本数(株)
9	テイカカズラ	19,065
10	コグマザサ	18,358
11	ベニシダ	17,634
12	ハイビャクシン	17,625
13	ノシランビッタータス	17,393
14	ヘデラカナリエンシス	15,685
15	エノコログサ	14,731
16	シマカンスゲ	14,467
17	シャガ	14,167
18	フィリフィラオーレア	13,470
19	ハイネズ・ブルーパシフィック	12,015
20	ノシラン	11,047
21	ローズマリー立性	10,601
22	ヤブコウジ	10,436
23	ギボウシ	9,789
24	タマスダレ	7,459
25	アガパンサス	7,037
26	ハツユキカズラ	6,791
27	ヒメイワダレソウ	6,503
28	クリスマスローズ	6,347
29	イブキジャコウソウ	6,206
30	コトネアスター	6,002
31	イトススキ	5,745
32	リュウノヒゲ	5,687
33	チガヤ	5,408
34	フイリフッキソウ	5,324
35	オカメザサ	5,283
36	ビンカマジョール	5,000
37	カレックス	4,240
38	ススキ	4,094
39	セキショウ	3,862
40	ヒガンバナ	3,681
41	イノデ	3,477
42	ローズマリー這性	3,363
43	マツバギク	3,227
44	スティパテヌイッシマ	3,204
45	ヘデラ	3,168
46	ユリオプスデージー	3,159
47	ナルコユリ	3,020
48	スイカズラ	2,933
49	ミズヒキ	2,912
50	ジャノヒゲ	2,782
51	フィリフェラオーレア・ゴールデンモップ	2,605
52	スイセン	2,574
53	イソギク	2,386
54	カワラナデシコ	2,381
55	キキョウ	2,337
56	シュウメイギク	2,323
57	ユウスゲ	2,246
58	カレックスコマンス	2,142
59	ワイルドストロベリー	2,131
60	ヒューケラ	2,075

今後の展望

1 生物多様性への貢献

今後、都市部の緑地は、美しい景観を創出するだけでなく、周囲の環境を考慮し、昆虫や鳥類の生息地や中継地としての役割も担うことが重要になるでしょう。このため、生物多様性保全に貢献する地被植物への需要はさらに高まると考えられます。

2 在来種の安定供給と普及

在来種の植栽種類数は増加傾向にあり、生物多様性保全への関心が高まっていることが伺えます。一方、在来種は生産量が限られ、安定的な市場流通が難しいという課題もあります。在来種を積極的に活用するには、地域固有種の選定や種苗の確保といった準備が不可欠です。今後は、こうした課題を解決し、在来種を安定的に供給・普及させることが、業界全体の重要な課題となるでしょう。

3 多様なニーズに応える植物の提案

植栽される地被植物は、耐病性や耐暑性、耐陰性に優れ、手入れが楽な種類が人気です。特に、地面を覆う能力が高い種類や、フイリヤブランのように手軽に庭のアクセントとなるカラーリーフが好まれる傾向にあります。今後も、高い機能性を持ち、かつ多様なデザインに対応できるローメンテナンスな植物の開発と提案が期待されます。